



リアス式の繊細で美し

「リア」

背後に北上山地の山々方の「風土と歴史」を

文化を支えた産金の歴史が浮き彫りになってきま を感じていただければ幸いです。 何気ない木洩れ日の中に秘められた悠久の光 縄文人たちの豊かな生活や 平泉の黄金

岩手県大船渡地方振興局 7022-8502 岩手県大船渡市猪川町字前田6-1 TEL.0192-27-9911 FAX.0192-27-1395 http://www.pref.iwate.jp/

第 7



ことばの 力に目覚めて

事に開眼したといいます。何よりのおもてなしになると気がついたときから、

0

が、地

元の方言

ドさんです。

長く勤まるだろうかという不安な時期があったも

0

ガイ

「ケセン語」を織り交ぜた会話

ら、ガイドの仕がお客さまへの

仕の

社の歴史を年号や人名をまじえて澱みな

く説明したりと、

本来

の実力もピカイチ。

四十歳が気仙人、

歳を目前にバスガイドになったという「変わり種人、大船渡市赤崎町生まれの三浦京子さんは」いれてこの方一度も家を離れたことがないというな

| 度も家を離れたことがないという筋金入り| ノイ・ー

ケセン語で一豊富な知識と

気仙の風土へ

準語を話すのが当たり前の時代でした。 言葉で話したら?」とアドバイスをくれ のときには、 そのような三 たのは義理のお兄さんでした。 全国各地のお客さまと一 をするガイド 浦さんがガイドになった二十年前、 気取った言葉でなく気仙の 一浦さんに の仕事では 「地元のお客さま 期一会の出会い ゚゚きれ な標

準語でいうところを、「四国は、なぞった 客さま、 ったべ?」 れた気仙の一行を空港に迎えたとき「お おさめていましたが、四国への長旅で疲 いました。 できないと、 ガイドが 四国はい とついケセン語でい *ズーズー弁*を話すことは しばらくはその言葉を心に かがでしたか?」 「どこに行っても標準 ってしま と標

> まにいわれ、義兄さんの言葉にようやく 合点がいったといいます。 いでようやぐ落ち着 のガイドばかりだったが、その言葉ァ いだ…」

のだか ら来たお客さまにも「今から気仙に行く 以来、 って゛モード゛ 標準語は最初の挨拶だけ。 ケセン語でしゃべります」 を切り替えるとか

豊富な知識はガイド ・の基本

内する地の知識はもちろん、 富な知識です。 りません。 屈させない豊富な話題づくりに余念が に手元に置いているという三浦さん。 とはいっても、 ネタ帳を何冊も 観光ガイドの基本は豊 移動中に退 つくり 案 常

強いです

をすらすらとそらんじたり、 バスが通った高速道路の YouTubeで三浦京子さんがケセン語で朗読する宮沢賢治の「雨ニモマケズ」と、山浦玄嗣さんの方言詩「母さんが涙」を聴くことが出来ます。 十桁(案内する寺 の工事費

語があ

碁石海岸周辺は必見の散策スポット

気仙大工の代表的な建物「長安寺」

YouTubeで│気仙新聞

遠野市

物見山(種山)

奥州市

とお客さ

浦さんですが、真骨頂

はやはり「ケセン

まを満足させる三

心が通じ和やかになった車内で必

セン語の

詩を味わってみてください

豊富な話題でお客さ

時空を超えた

風土の魂

地元の山浦玄嗣さん さまに時空を超えた ご覧ください)の を感じてもらえるよう す。美しい三陸の景色を見なが といっていいほど朗読するのは 聞く方言詩は、バスの中のお客 (3ページを です。 風土の魂 センの詩」 ₹釜石市



気仙大工の資料がいっぱいの気仙大工左官伝承館 (P.2)

もう少しで完成するといいます。 ニモマケズ』のケセン語訳に取り組み、 とができたといいます。 来るときにはぜひ三浦さんのガイドでケ らこそ、ここまでガイドを続けて来るこ の 旦 そんな三浦さんは今、 が待ち遠しいようです。 宮沢賢治の 気仙に

子。毎日ここで暮らせるようになる「退職を作ることだね」と楽しくて仕方がない様ちも集まり炉を囲みます。「やっぱり友だち

山さんの気持ちがよく る海を望み、「この眺めで決めた」という平 、白い波の打ち寄せる三陸町吉浜の高台に 釣りだとか。横浜の わかります。 移住の

きっかけは趣味の渓流



山菜やブルーベリーも。呂、畑には大根、ネギ、

+»°

平山さんが来る週末には、

地元の友人た

呂、畑には大根、ネギ、ジャガイモのほか、目を輝かせます。庭には海の見える露天風

楽しい会話がはずむ囲炉裏ばた

る砂浜やきらきら光あるログハウスから

ιţ

建築士として働きな大手建設会社で一級 来る機会が自然と多くなり、 がら全国の渓流に通ううち、

毎週末車で通いました。六百キロの距離も ちと一緒に建築。当時住んでいた横浜から た岩手県人たちの純朴さが好きで岩手を第 一の故郷に決めたとい 楽しかったから全く苦にならなかった」と 建物は人を介して知り合った地元の人た います。 仕事で出会っ東北の渓流に



平山川17

山

則男さん

[1]

| (本) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**) | (**)

とどまらず、

マグロなど大型の魚を捕獲で

具も出土します。この地では、

貝の採取に

ツオなどの骨、そして土器や石器に混じっ

貝塚からは貝殻のほかマグロ・ブリ

カ

鹿の角で作られた釣り針やモリなどの

漁

きな要因です。

貝塚があるのは、気仙が温暖で過ごしやす

海や山の食料に恵まれていたことも大

中沢浜の四つの国指定史跡を含む五十以 おり、その中には蛸ノ浦・下船渡・大洞 貝塚が含まれています。これほど多くの 地には四百以上の縄文遺跡が見つか

気仙地方の歴史を縄文時代に遡れば、こ から と金野先生。 いわれますが、その背景 人の比較的自由な生活があったのです」! **「『気仙衆は口がうるさ** にはこのような気 い』とは後々よく

共生

0)

心は縄文の

昔

9

気仙大工集団」

上

報を得ながら歴史を刻ん も共生の精神に溢れた気 このように気仙は、縄 できました。 文以来闊達でしか 運の中、最新の情

県北に伝わる次のような歌からもうかがいこうした気仙の溌剌とした気風は岩手の れます。

さやずる声の目出度さよ_ 巣をかけて **「つばくろ(つばめ)** 夜明け n か ば銭押せ吹けと 気仙の方さ

(『九戸郡

誌』銭座節より)

繁栄の機運を感じていたのでしょう。 **. 賑々しくさえずるつばめの様子に気仙の** の方に向けて巣を作り、 夜明けととも

きて年貢が義務づけられました。

の地形で平地の少ない気仙では、

米の代

わ

する必要がありました。「

いやでも、

憎く

ても(笑)、共同しなければやっていけ

自然環境がそう仕向けたのです

ね

と

な

せんでした。

そのため様々な作業を共同

で

りに魚や木の実などを納めなければなりま

ながら漁業を営んでいたようです。

農耕社会が形成されるにつれ、

階級がで

リアス式

きる技術を持つ漁撈集団をつくり、

協力し

るほどでした。気仙大工は神社仏閣に限ら 必要に迫られました。人々は郡内の外にも 発展に貢献したのです。 が来ないうちはお堂が建たない」といわれ 働きに出るようになります。それが「気仙 入すると自給自足が難しくなり、出稼ぎの ではなく各地の情報をも持ち帰り、気仙のた職人たちは、当然のことながら銭金だけ ず、民家や船までも造りました。出稼ぎし 団は各地で尊敬の念を持たれ、「気仙大工 代に外に出て働くということは大変なこと 大工」と呼ばれる技術集団でした。藩政時 でしたが、 平地の少ない気仙に多くの人が流 高い技術を持った気仙の職人集

受け継がれる 気仙人気質

漁法などの最新の情報を指導して歩いた人 たちで、ある種の尊敬の または気仙衆) 」と呼ば いました。 ていました。 気仙では江戸の頃から 彼らは船 念をもって見られ れる人たちが活躍 や漁具の作り方、 「気仙ぼ(大網人

を仲間と共有し地域の発展に寄与した例が「ワカメの塩蔵技術」など、革新的な漁法 テの耳づり養殖法」 ばれた水上助三郎、そして最近では「ホタ りと受け継がれています。 この地にはたくさんあります。 ワビ」の基礎を築き「オットセイ王」と呼 新しい文化や技術を共 人の気質は「気仙謀」を経て今にしっか や「ワカメの養殖技術」 有しようとする気 「キッピン・ア

います。 気仙衆のなかにもしっ に伝え、共栄しようという気風は、現代の このように、ノウハウを惜しげもなく人々 書店)など著書多数。一九書店)など著書多数。一九の地名」(平凡社)『岩手』立博物館長、岩手県文化財で護協会長る岩手県立盛岡第二高等学校岩手県立盛岡第二高等学校岩手県立盛岡第二高等学校出版。 著書多数。一九二四年生まれ、平凡社)『岩手の伝説』(角川平凡社)『岩手の伝説』(角川と財愛護協会長を歴任。『岩手に対愛護協会長を歴任。『岩手県文化財保護審議会長、岡第二高等学校校長、岩手県 か りと受け継がれ

の活躍

素朴なエビス信仰 舟下

心った船辺であった。 海岸 満に 潮 お い時に行いてい 行 わか れつて のの が _ 例舟

Rった船梁の近くに、お神酒、塩、ホシカ (干鰯)、クルミ、大豆、餅、ホシカ (干鰯)、クルミ、大豆、餅、大根などを供え、ほかに米、墨ツボ、大根などを供え、ほかに米、墨ツボ、大根などを供え、ほかに米、墨ツボ、大根などを供え、ほかに米、墨ツボ、大根などを供え、ほかに米、墨ツボ、大根などを供え、ほかに米、墨ツボ、大根などを供え、ほかに米、墨ツボ、大根などを供え、ほかに米、墨ツボ、大根などを供え、ほかに米、墨ツボ、大根などを供え、ほかに米、墨ツボ、カーにはならないという。下ろされた舟は、左回りで漕いで回るのが例であった。(気仙地方) るのが例であった。(気仙地方) で左右の揺れや、前後のバランスで左右の揺れや、前後のバランスにとする。 水の前に、)、・
が近くに、 ら、 船霊さま

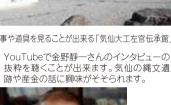
などを自ら確かめる。

母主も乗船して、用意した「ゴシ餅」を岸に集まっている人達に撒く。進水した舟は、岬に祀られている「エビスさま」「弁天さま」付近を回る。大漁旗を立てて、「ミヨシ(船首)」や「トモ(船尾)」には赤手式がつけられ、船頭や舟子たちも首に巻く。一同「大漁歌い込み」をあげ、大いにお祝い気分を盛り上げる。 ローの信仰が篤いので、漁船の進水式のときは、エビス神」が鎮座されているものだという。 そこで、海に突き出した岬は、「エビスハナ」とか「エビス神」が観座されているがい高のがき通で、とくにお宮がなくても、ここには「エビス神」が観座されているのが高いので、漁船の進水式のときは、エビスを祀っている岬に行き、その沖合に出て、海に突き出した岬は、「エビスがよ」が観座されている中に行き、その沖合に出て、海上では、「ゴシ餅」を対している岬に行き、その沖合に出て、お神酒をあげて拝むのである。

(ツーワンライフ出版)より抜粋したもリアスの歳時記は金野静一著『海の年輪』

郷土史家 金野靜 さん





気仙の歴史を語る金野さんの話はいつまでも尽きることがありません



YouTubeで 気仙新聞

ま

13

理は地元の 気仙には代官所が置かれ、

わけです。

て比較的自

金野先生はいいます

今も残る昭和時代の鉱山分布図 気仙周辺が黄色に塗られている

平氏に寄進された気仙の 金

仙の歴史や文化、 た山が多くあり、 後東北各地から金が産出されます。気仙で 接・間接に大きな影響をあたえました。 の東大寺大仏の塗金や奥州藤原氏の平泉に も運ばれました。この豊富な金の存在が気 も玉山、今出山、 近世まで金の産地として名を馳せていまし あまり知られていませんが、気仙地方は 年宮城県の涌谷(わくや) 日本で最初に金が発見されたのは七四 そして気仙人の気質に 雪沢など金山として栄え 産出された金は奈良時 でしたが、以 直

史や暮らし、またこの地で多く産出した

継がれています。それらは縄文以

来の歴

方には、独自の気質や風

岩手県の沿岸南部に位

仕が連綿と受け位置する気仙地

する気仙

金の歴史と決して無縁ではないようです。

そんな気仙の歴史を、元岩手県立博

物

さんのお話を通してみなさんにご紹介いた

ます。

館長で岩手の郷

土史家でもある金野静

進しています。 情報や文化が直接気仙に入って来て ある土地だったわけです。また、 した。これらの事実は、当時の最も新し いうことをも意味します。 は伊達藩の直轄地として治められて 中央政界の実力者の平重盛に気仙郡を寄 奥州平泉が栄華を誇った時代、藤原秀衡 気仙の金山はそれだけ価値 江戸時代 いたと

支配を免れ、そのおかげで最新の情報を得 た。それにより気仙は幕藩体制からの強 由な暮らしをすることが出 「大肝入り」に任されていま 来た

医師・

ケセン語研究家 うら 肌さん

訳した『ケセン語訳新約聖書』までも出版し、 のことばの研究を続けてきた大船渡市の開業医、 大辞典』、そしてキリスト教の四つの福音書をケセン語で翻 ん。気仙方言を誇りを込めて「ケセン語」と名付け、文法書 して気仙人の郷土愛を鼓舞してきました。 『ケセン語入門』や三万四千語の語彙を収録した『ケセン語 「ことばは魂の宿る座」といい、自分のふるさと気仙地方 ケセン語を通 山浦玄嗣さ





本屋はもちろんのこと魚屋、八百屋、

が気仙人の誇りを目覚めさせたのです。 語」と誇らしく宣言し体系づけたこの本 きました。ふるさとのことばを「ケセン 門』を出版したとき、気仙中が喜びに沸

仙台からふるさとに戻り『ケセン語』 **『ケセン語入門』に地域が沸く**

山浦さんの地元の盛(さかり)町では、

山浦さんの著作の数々

(気仙中に雪が降った)、「おらァ御代(み「気仙洛中(らぐじゅう) 雪降った」 よ)でなぐなった」(わたしは勢いの 四十年にわたる体系化

の本を売ったほどでした。

ります〟と看板を貼り出し、こぞってこ 屋、酒屋などでも〝『ケセン語入門』あ

の言語として確立したのが大船渡市の 十年以上にわたって研究を重ね、ひとつくんな地元のことばを、医学の傍ら四

開

紙が届いたこともありました。

うれしさのあまり裸足で裏のお墓に走り 英語とも対等の「ケセン語」なのだと、

菓子のシリーズが「七郷の風土菓」です。

日本で最大・最古の地

元のやぶ椿をテ

ーマにした「三面椿」。気仙地方特産の種

社是としてきました。そ 時から風土にこだわった る製菓会社です。さいと 玉子」で全国に知られる

の心を表したお お菓子づくりを う製菓は創業当

ご先祖さまにご報告しました」という手

域の誇りは大きなものだったようです。

山浦さんがことばを通して復権した地

とは違う気仙独特のことばの使い方。 の区別、「洛中」や「御代」など標準語

X

を話す姿を見て、「おらど(わたしたち)

山浦さんがテレビで誇らしくケセン語

のことばはズーズー弁ではなく、日本語、

全国に方言を見直す活動が盛んになるき

レビを通して全国に紹介され、

以後日本

さいとう製菓といえば

銘菓

「かもめの

東北を代表す

さらには『ケセン語入門』はNHKテ

っかけとなりました。

して書き言葉では表現できない独特のイ

い時期ではなくなった)。濁音と鼻濁音

ントネーション。

業医・山浦玄嗣(はるつぐ)さんです。 喪失した自らの誇り

はいいます。 はなく、ふるさとの歴史や文化への誇り をも失っていくように思えたと山浦さん って覚えました。しかし、ことばだけでた隠し、^きれいな、標準語を懸命にな ティティーであるふるさとのことばをひ なども起きました。ふるさとを離れ東京嘲笑の的にされ、そのために自殺や殺人 へ出た東北の人たちは、自分のアイデン 戦後長い間、方言は蔑(さげす)

みるというのがその理由です。「ことば聖書よりもずっとわかりやすく、心にしも売れたといいます。標準語で書かれた

ス様を伝えたい」という夢が実現しまし「気仙の仲間たちに気仙のことばでイエ

セン語訳新約聖書』全四巻を完成させ、

その後、山浦さんは二〇〇四年に『ケ

。ケセン語訳聖書』の完成

をテーマにした「黄金の

七郷」など、い

守」。平泉の黄金文化を支えた気仙の産金 なし小枝柿をまるごと使った「小枝柿 木

語がやさしく添えられています。

ずれのお菓子にも気仙の風土や歴史の物

た。このケセン語訳聖書は不思議なこと

ご当地バー 三陸のサン

カー

マを楽しむ

に、気仙だけではなく日本全国に一万冊

はとても悲しいことでした。そんなふる 屈になっているふるさとの仲間を見るの「自分たちの文化に誇りを持てず、卑 さとに、熱い誇りを奮い立たせ、 元気にしたいと思ったのです」 「自分たちの文化に誇りを持てず、 明るく

す」と山浦さんはいいます。

デケセン語訳新約聖書

、山浦さんは二〇書』の仕事はバチ

カンにも高く評価され、

そ、多くの人に受け入れてもらえるので はありません。魂が宿ることばだからこ は魂の宿る座。ことばに貴賤や美醜など

字のない気仙のことば

北の一地方のことばをとおして成した仕ます。山浦さんが「ケセン語」という東語訳新約聖書』を献呈する栄誉を得てい二世に特別謁見を許され、直接『ケセン二世に特別謁見を許され、直接『ケセン〇四年四月、ローマ教皇ヨハネ・パウロ

語の聖書を使って友だちに伝えようとし 少年が、大好きなイエス様のことを標準 で唯一のカトリック信者の家だった玄嗣 が日本語にはないのです。二つめは、村 分たちが話していることばを表現できる す。一つめは、 を伝えたい」とその時心に決めたのです。 ても理解してもらえなかったことでした。 たのには三つの出来事があったと でも「す」でもない中間音を表すことば に訪ねて来た故郷のおじさんと久しぶり 気仙のことばで気仙の仲間にイエス様 字」がないことを知ったことです。「し」 そして三つめが、仙台の大学医局時代 山浦さんが自らのことばに関心を持っ 小学校の作文の時間に自 いいま

> らず、 事は、

世界的な精神文化の潮流の中でも地方の文化や誇りの復権にとどま

大きな役割を果たしているようです。

っていますが、陸前高田

した。作ったの

高田松原」に

市に「三陸さん

全国各地のご当地バー

ガー

が話題にな

YouTubeで山浦玄嗣さんのインタ ビューの抜粋を聴くことが出来ます。 地方の文化にとって「言葉の復権」





YouTubeで 気仙新聞

の食感が絶妙です。地元 サンマと五種類の野菜、

のチキンを使っ そしてバンズと もレシピもこだわり、陸

前高田名産のヤ

- 風味のフライに加工し、バンズは材料

三陸を代表する海の幸サンマを、カレ

ある「窯工房 KIMURAY は陸前高田市の「道の駅 まバーガー」が誕生しま

 Δ 1 $^{\circ}$

ーコンの酵母を使って焼き上げました。



らず、気仙のことばを話せない自分に気 のことばを聴くことはできても、

いたのです。「ふるさとのことばを話

なくなってしまった自分は

に再会したときの出来事です。

おじさん 舌が回

題を集めています。(しばらくは土日 た「ハーブチキンバーガー」とともに話

日限定販売となります)

のだろうか? 自分は気仙人ではないか… 気仙のことばを話してこ

さいとう製菓の 七郷の `風土菓」

M

多り三陸旅 八木健一郎の産直こぼれ話~

6

極の三陸旅とは? 今回は、 三陸の旅が どんな旅行誌にも決して載らない、究

究極の三陸旅]

一倍も三倍も楽しめる極秘情報をこっそ

さいとう製菓の風土菓シリーズ



何時頃に、どんな作業が行われているの目当ての魚介について、いつ・どこで・せて日程を設定してください。次に、おまずは、一番食べたい魚介の旬にあわ

旬の魚介を楽しむこと。

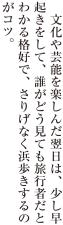
三陸の旅の醍醐味は、なんといっても

り公開しちゃいます。

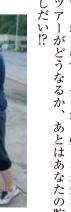
か、情報を収何時頃に、い

三陸の旅へGO!

少し早



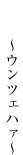
ツアーがどうなるか、あとはあなたの腕てくれるはず。そこから始まる未知なる手に「どこから来たんだ?」と話しかけきっと漁師さんが捕れたての魚介を片





おらほの「ケセン語」⑥





特性バンズはさんまとの相性が抜群

窯工房 KIMURAYA 電話 0192-54-5511

は「いいえ」、「ハァ」は「はい」という の人のことをいう言葉です。 意味で、言うこととすることとが正反対 おもしろい語彙があります。「ウンツェ」 ケセン語には「ウンツェハァ」という

民衆の間に言語的な混乱が生じ、言うこ 治維新とともに学校教育が始まり応答形 する応答形式が英語と同じでしたが、明 ことが起きたのです。 ととすることとが正反対になってしまう 式が正反対の「標準語」が〝侵入〟し、 気仙地方ではもともと否定疑問文に対

いえ、痛くありません」となります。ません」ですが、ケセン語では「い準語の答え方は、「はい、痛くありず語の答え方は、「はい、痛くあり「頭が痛くないか?」という否定疑

を参考にしてご紹介しました。山浦玄嗣著『ケセン語の世界』(明治書院)

ーロが書いた、 コロンブスが目指 した、ビスカイノがや

きた



鈴木英彦さんは創業者で父でもある先代社長の気骨を受け継ぎ、使命感 提供し続けている地元紙「東海新報」。地元気仙に深い愛情を持つ社長の 昭和三十三年の創刊以来、行政から民間の出来事まで、地域の話題を

ジャズや陶芸など、鈴木社長は多趣 を持って地域に貢献する「気仙の世話人」的人物です。 なって行きません」といいます。

味な文化人として知られています。ジ

で、陶芸は焼き窯まで作るほどの力の ャズはバンドを組みライブをする腕前

します。 域活動に参加する人たちが多いと評価 ともいいます。その点この地域は、 の一人として参画していく必要がある なことをいうだけではなく、地域住民 そして鈴木社長は、新聞でいろいろ

わが気仙は有望のようです。

なる地域のオピニオンリーダーにとど 的にも高い評価を受けていますが、単

本業の新聞は、その質の高さで全国

ンきらめき大学」の事務局を社内に置 まらず、気仙の地域おこし団体「ケセ

くなど、会社全体で地域活動を支援し

特産品で地域を活性

若者が地元に残るには個々人で切り拓 の活動は、その先導役も務めているよ るはずです」。「ケセンきらめき大学」 を使って特産品を作り出すことが出来 富なところです。旅行先で料理を食べ が少ないこともあって企業誘致も困難。 ると、それが実感できます。この食材 発が有効だと鈴木さんは考えています。 くしかない。そして起業には特産品開 も若者の就職問題が浮かびます。土地 地域の活性化を考えるとき、 川と本当に食材が豊

めるなどその活躍が目を見張ります。 を開催し、自らコーディネーターを務 年を記念して「気仙応援団フォーラム」

地域住民の一人として参画

その先頭に立っています。

また昨年十月には、新聞創刊五十周

気骨と愛情をもつて

ません。地域をよくしなければわれわ

ですから、地域から離れることはでき

「ここに住んで地元紙を作っているの

れもよくなるわけがありません」「私が

社是につきるようです。

正雄氏から受け継いだ「郷土愛に徹 鈴木社長の活動の理念は、先代社長

リアスの理想実現を期す」という

考えているだけではどうにもならない。

みんながそう思わなければ気仙はよく

るばかりの愛情をもって、 貌の下にその気骨を受け継ぎ、あふれ 堕することをおそれて外部資本を導入 です。二代目は穏やかでスマートな風 が昭和三十三年に創刊。「御用新聞」 ン。その明るさ、温かさを紙面に醸し い未来を思い描く現代のジェントルマ 東海新報社は先代社長・鈴木正雄氏 独力で経営してきた骨太の新聞 今日も各家庭に届けられていま 地域の明る

氏の黄金文化を支えたといわれています。 前まで採掘は続けられました。 以降、産出量の変遷はあったものの、 沿岸南部は大量の金を産出し、 金を出す」と記述されています。 とされ、『続日本書紀』に「本朝始めて黄 宮城県北部から気仙地方がある岩手県

雄飛させる大きな動機の一つとなりまし ッパ世界に紹介されます。そしてコロン より「黄金の国ジパング」としてヨー ブスをはじめとする冒険家たちを世界に いたマルコ・ポーロの『東方見聞録』に この黄金文化の噂は中国の元に仕えて

九年(天平二十一年)、今の宮城県涌谷町 日本で最初に金が産出されたのは七四 黄金への誘いはその後も「金銀島伝説」

とを考えれば、気仙をはじめとする奥州 の黄金が世界史に果たした役割はとてつ くったサン・フアン・バウティスタ号が ンドレス」という名を付けています。 慶長遣欧使節」を乗せローマに行ったこ その後、ビスカイノが政宗の助力でつ

可を得て三陸沿岸を測量し、一六一一年 は測量の名目で江戸幕府や伊達政宗の許 スチャン・ビスカイノに下されます。 としてヨーロッパ世界を魅惑し続け、ス に大船渡に入港。大船渡湾に「サン・ ペイン国王による金銀島探索の命がセバ

もなく大きなものだったといえます。



大船渡港の「サン・アンドレス公園」には、1611年に入港したセパスチャ ン・ビスカイノの銅像とモニュメントが建てられています

水産日本」 四百の縄文遺跡が伝えるもの~ の原点



リ地震津波などがあります。

とくにも明治三陸大津波の被害は甚大

波、そして一九六○(昭和三五)

波、一九三三(昭和八)年の昭和三陸津

八九六(明治二九)年の明治三陸大津

は忘れてはならない一面です。この地帯

三陸の風土や歴史の中で津波との共存

~津波の常襲地帯の教訓~ 津波てんでんこ

日本の地質 〜数億年前に

選

選

定

赤道周辺

は世界で一番の津波常襲地帯として知ら

れ、過去被害の大きかったものとしては、

む四百ヵ所以上の縄文遺跡があり、 の重要性が容易に想像できます。 度に発達した漁具や漁法を持つ漁師集団 漁具などがたくさん出土し、丘一帯が高 このうち四ヵ所が国指定になっておりそ 有数の貝塚の密集地域を形成しています。 ||百年前|| の動物の骨や角でつくられた 塚からは縄文晩期(約三千年前~二千 大船渡市赤崎町にある大洞(おおほら) 気仙地方には五十ヵ所ほどの貝塚を含 日本

盤がこの時代にすでにつくられていたこ 業技術がいかに高度で、現在の漁業の基 代の形と変わらず、この地で営まれた漁 出土した「モリ」や「ヤス」などは現

の村であることがわかっています。

ていたことが容易に窺われます。 この地で豊かな自然の恵みを得て暮らし なども食べていたことがわかっています。 魚貝の他、シカ・イノシシ・キジ・カモ ホタテ、クジラ・イルカ・マグロなどの 縄文時代の貝塚からは、アサリ・カキ・

大船渡市立博物館 電話0192-29-2161 http://www.city.ofunato.iwate.jp/

えられ「tsunami」という言葉が世界中

しました。このときの惨状は世界中に伝 で、岩手県だけでも約一万八千人が溺死

で使われるようになりました。

三陸海岸には「津波てんでんこ」とい

古い地層が連続して分

7布する大

船

要 渡

なは

切な教訓です。 す。地震が来たら「津波てんでんこ」を ってもいいほどの自然災害が津波なの といわれる強固な岩盤の北上山系に守ら れないほどの悲話が三陸にはあります。 れ、台風もほとんど来ません。唯一と のない気仙地方。地震は、世界でも有数 **う意味です。親族の身を救おうと数え切** 分の身の保全を第一に考えて逃げろとい いう意味で、いざ津波が来たときには自 うのは「バラバラに」とか「別々に」と 一方、津波以外にはほとんど自然災害

※写真/山下文男著『津波の恐怖』 自身も津波経験のある山下さんはライ フワークとして津波の伝承録を書いて います。本文の一部は山下さんの本を 参考にさせていただきました。

れません。

う言い伝えがあります。「てんでん」とい 着いたというわけです。 億年前は赤道周辺の浅い されていますが、これに ワーはこんな所に理由が けです。気仙という風土 堆積し、地層となり、今 というのです。長い移動の 序々に移動し、日本列島 様な植物化石やサンゴ化 白選」に選ばれています。 され、二〇〇九年五月に 四億二千年前の化石が日 町の樋口沢にあるシルル 日本列島の成り立ちを考 んだ「異物?」のような ウミユリ・石灰藻などが この周辺からは国内と 気仙の地層はいわば日 気仙地方など岩手県の 、良質なセメント原料 大船渡市日頃 かあったのかも知れるものだというなものだというない。 **崗に合体したのだい海」で、それが** で、それが 付となる石が採取れ石が多数見つからしては珍しい多 7の気仙になる浅い暖かな は「日本の地層が える上で重 巾 は の過程でサ 驚くよう (ひころ

[編集後記]

知パわ込

かな海に

ン

ゴ

たど

◆皆様からご好評いただいております気仙新聞も今号で第7号の発行となりました。◆ 今号のテーマは「風土と歴史」です。気仙地方の歴史、風土やことばに光をあててご紹 介してみました。歴史や風土というとちょっぴり取りつきにくいイメージがありますが、 目からウロコが落ちるような数々の興味深いお話しをお楽しみいただければと思います。 ◆気仙地方には、平泉の黄金文化を支えたといわれる産金地としての一面があり、その 噂は世界に広がり冒険家たちを「黄金の国ジパング」に向かわせたと伝えられています。 当地方には秘められた歴史、文化、伝承などが数多くありますので、本紙によりその一 端を垣間見ていただければ幸いです。◆歴史や風土とともに、気仙人が繰り出す独特の

方言「ケセン語」も魅力たっぷりです。ご多分に漏れず聴き取りにくいことばではあり

ますが、地元民が操るケセン語はどこか懐かしい雰囲気を醸し出します。◆当地方の秘

められた歴史ロマンをじっくりと探訪し、ケセン語の達人との語らいにどっぷりと浸っ

なド

取か多

てみてはいかがでしょうか。きっと明日への活力がみなぎることと思います。 [気仙新聞 第7号 発行:平成22年2月22日]

の地質

13

ち

..... ★ 岩手県気仙地方への移住・定住などのご相談は

下記の窓口までお問い合せください。 ◆大船渡地方振興局·企画総務部(「気仙新聞」係) 電話 0192-27-9911

「層状石灰岩」は北上山地の南部を特徴づける地層の一つです

大船渡市立博物館 電話0192-29-2161

http://www.city.ofunato.iwate.jp/

- ●岩手県の総合窓口「定住・交流サポートセンター」 (岩手県地域振興部地域振興支援室) 雷話 019-629-5194(直通) http://www.pref.iwate.ip/~uii_turn/
- ●首都圏での総合窓口「いわて定住・交流支援センター」 (いわて銀河プラザ Uターンセンター内) 電話 03-3524-8282 http://www.pref.iwate.jp/~hp0401/
- ●大船渡市の窓口 「企画政策部企画調整課」 電話 0192-27-3111 http://www.city.ofunato.iwate.jp/

●陸前高田市の窓口 「企画部企画政策課」 電話 0192-54-2111 http://www.city.rikuzentakata.iwate.jp/ ●住田町の窓口「町づくり推進課 移住相談窓口」 電話 0192-46-2114(直通) http://www.town.sumita.iwate.jp/

っとプレゼン 読者の皆様から気仙新聞への感想やご意見を募 集しています。ハガキまたは封書に「ちょこっとプレ ゼント応募券」を貼り、住所・年齢・お名前を明記の うえお送りください。抽選のうえ5名様に、「(株) 八木澤商店の生揚醤油・味付ぽん酢柚子・吟醸粕 漬けの詰合せ」をプレゼントさせていただきます。

2010年3月31日です)

(第7号の〆切は

[応募先] 〒 022-8502 岩手県大船渡市猪川町字前田6 岩手県大船渡地方振興局 「気仙新聞」係